

環境未来都市に向けて



愛と希望の復興

市民一人ひとりが「健やか」で「幸せ」であることを実感できる「健幸」先進都市を目指して・・・



平成24年2月21日

岩沼市

岩沼市と環境

岩沼市で暮らす市民一人ひとりが「健やか」で「幸せ」であることを実感でき、生涯現役市民が支える「健幸」先進都市を目標にまちづくりを進めてきた。

東に白砂青松の海岸と豊かな田園、西には市民の里山である千貫丘陵、南には母なる阿武隈川、北には仙台平野が広がり、自然環境に恵まれた市である。

平成15年にはグリーンピア岩沼の里山177haを取得。市民に愛される里山として自然環境保全に取り組みながら、健康増進、生涯学習の場として活用している。



新緑のグリーンピア



貞山堀と松並木



仙台市の南	17kmに位置
人口	約44,000人
市域面積	60.71km ²

震災被害の様子

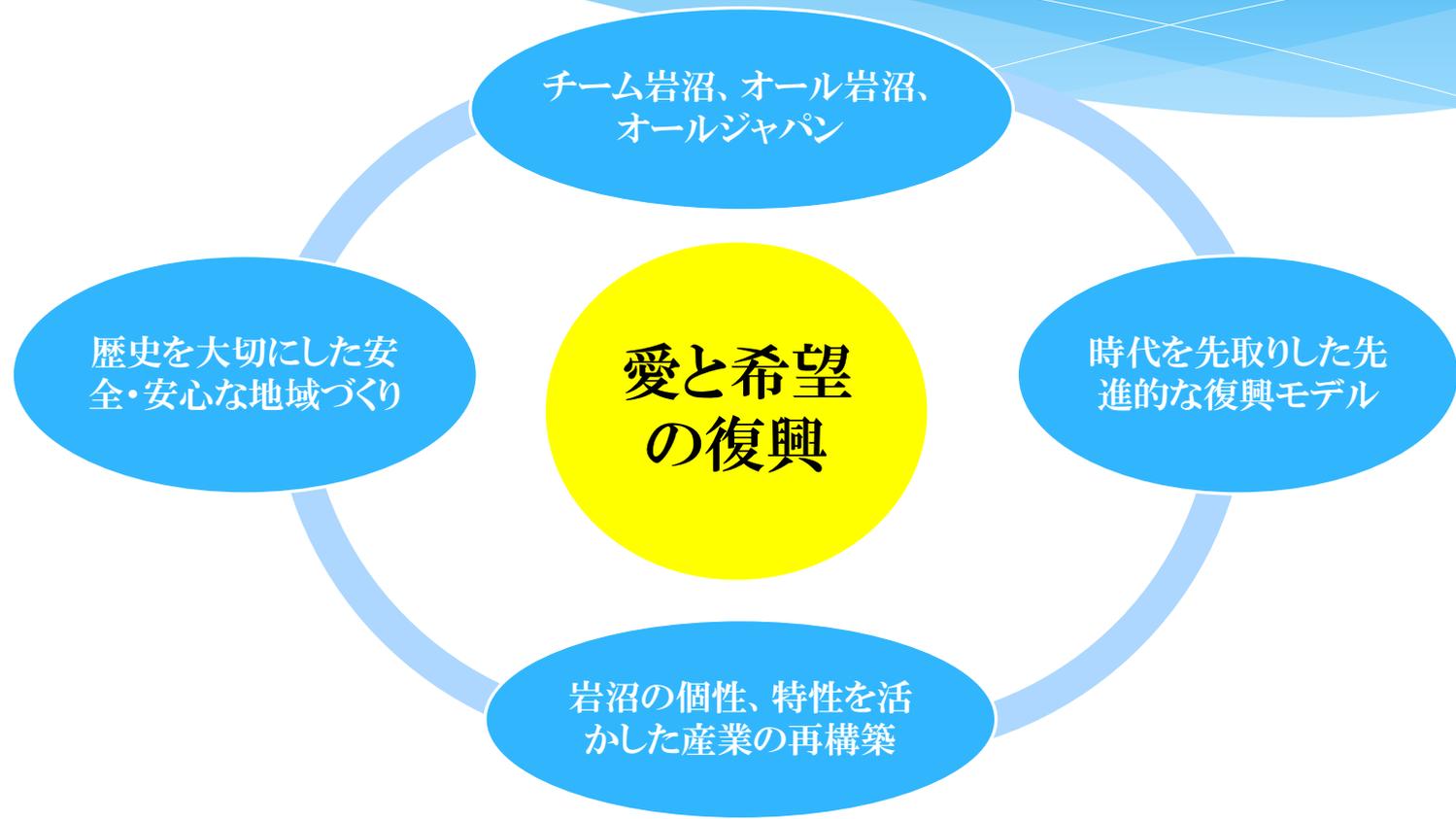
仙台空港ターミナル付近



津波により壊滅状態の集落



復興の基本理念



復興のための7つのリーディングプロジェクト

- (1) すみやかな仮設住宅の建設と暮らしの安定
- (2) 津波からの安全なまちづくり
- (3) 農地の回復と農業の再生
- (4) 自然共生・国際医療産業都市の整備
- (5) 自然エネルギーを活用した先端モデル都市
- (6) 津波よけ「千年希望の丘」の創造
- (7) 文化的景観の保全と再生

岩沼市復興イメージ

環境未来都市提案書に盛り込んだ
震災復興計画の主要プロジェクト

「自然共生・国際医療産業都市の形成」

「再生可能エネルギーの活用」

「エココンパクトシティの形成」

「千年希望の丘」



私たちの想いや祈り、教訓を将来に繋げる歴史的プロジェクト
未来に伝える「千年希望の丘」の創造

- 【課題】
- ・津波に対する防御、不安
 - ・膨大に発生したガレキの処理
 - ・壊滅した沿岸部の利活用

【対応】

①「津波を防ぐ」から「減災」に考えをシフト

⇒壊滅した沿岸沿いになだらかな丘を配備し威力を減衰・分散。防潮堤と併せて、多重の防御により住民・企業の不安解消。

②ガレキの活用

⇒有害物質を含まないコンクリート殻を内部に埋設することで、自然の脅威と人類の英知を後世に残す。

③公園整備として、丘の造成に合わせて風土にあった樹木を植林。

⇒環境面から景観形成と生態系保全に寄与。

④官民、国内外問わず支援を呼びかけ



被災地の復興をけん引し、復興の象徴となる未来都市へ
自然共生・国際医療産業都市

【課題】 津波により多くの企業が被災し、大勢の離職者が発生。

【対応】

①雇用の創出が急務 ⇒宮城県の構想＝医療産業とクリーンエネルギー産業の集積
⇒仙台空港周辺に研究開発拠点や医療関連企業の誘致
⇒裾野が広い分野であり、広域圏に波及効果が期待

②医療分野や健康分野の研究機関、関連産業の誘致により、産業の集積・活発化・医療の高度化 ⇒超高齢化社会への備えとなる。

③具体的な動き

これまで有識者による3回検討会を開催。⇒今後、医療や健康に関連する産業や介護・看護等の教育施設など、宮城県に適している業種などを提言いただく予定。

④都市整備にあたっては、エリア内に自然再生エネルギーを活用した取り組みを行う。
⇒電源不通時に対応可能な供給体制を構築。

岩沼市が提案する環境未来都市のイメージ

人と環境に優しい、そこに「住み続けたい」と思えるコミュニティを再構築する。

暮らしの安心

- ・ 集団移転
- ・ ICTを活用した情報化促進

津波からの防御

- ・ 千年希望の丘
- ・ 市道の嵩上げ
- ・ 防潮堤
- ・ 貞山堀堤防の嵩上げ

自然環境との共生

- ・ 居久根(いぐね)再生
- ・ 千年希望の丘
- ・ 太陽光発電と蓄電池を活用したエネルギーマネジメント

津波への危機管理

- ・ 千年希望の丘
- ・ 避難路の整備
- ・ ICTを活用した情報化促進
- ・ 電源の安定供給

エココンパクト シティ

雇用の創出

- ・ 国際医療産業都市
- ・ アグリビジネス創出

伝承・防災教育

- ・ 千年希望の丘
- ・ (仮)震災津波博物館